

第3回府中市子ども・子育て会議報告書

- 1 日 時：令和6年9月26日（木） 19：15～20：45
- 2 場 所：府中市役所4階 第一委員会室
- 3 出席者：吉 原 純（会 長） 金 子 努（副会長）
廣 瀬 和 彦（委 員） 板 橋 千代美（委 員）
河 村 昌 子（委 員） 宗 藤 正 典（委 員）
田 中 いづみ（委 員）

4 概 要

- (1) 開会
- (2) 議事

① 第1期府中市こども計画（仮称）について

- ・第1期府中市こども計画（仮称）について（資料1）
- ・第1期府中市こども計画（仮称）（骨子案）（資料2）
- ・施策体系（事業）一覧（資料3）
- ・地域子ども・子育て支援事業の概要（資料4）

- (3) 閉会

以下、主な質疑及び意見等（※会長、副会長の発言についても委員として表記）

【議事①】第3期府中市子ども・子育て支援事業計画について

委 員 重点方向の1つ目「予防的支援」は具体的に何を意味しているのか。

事務局 これまでネウボラを推進し、全ての子育て家庭へのポピュレーションアプローチを行ってきたが、虐待を未然に防止する目的もあり、このことは予防的支援の取組でもある。また、4月から母子保健と児童福祉の部門が一緒となる府中市のこども家庭センターも機能としては始めているところであるが、このこども家庭センターの目的にも予防的支援がある。

今後この予防的支援を進めるにあたり、府中市ではシステムを活用することを進めており、現在システムを構築中である。

今後起きるかもしれないという予兆を把握して、支援を検討することになるが、システムが出してきたものをこども家庭センターの職員を中心に支援の方法を決めていくということで予防的支援の取組を進めていきたい。また、こども家庭センターの職員だけではなく関係機関として学校や保育所、その他機関も入っていただく。今すぐには無理だが、将来的には地域にも入っていただく方向性も考えている。システムの活用と関係機関からの気づきの双方向から予防的

支援を進めることを考えている。

委 員 重点方向の2つ目「横断的把握」は具体的にはどういうことか。

事務局 家庭へのアプローチは行政の縦割りで実施していることが多い。国も進めている地域共生社会の実現に向けた重層的支援は、こどもだけではなく障害のある方や高齢者についても横連携で取組むという意味で横断的ということであるし、また地域共生社会の実現に向かっていく前段として、庁内で各部署が横断的に連携し、家庭の状況を全体的に把握することで支援を入れていきたい。

委 員 府中市は重層的支援体制整備事業を直営でしているのか。

事務局 府中市は現在検討中で始まっていない。

委 員 行政の中の縦割りを相互乗り入れするときに、委託となると相互乗り入れが難しいと思う。横断的な把握をするのであれば直営で直接府中市が管理運営できるような体制を作る方が横断的把握に結び付くと思う。

委 員 同じく重点方向について質問したい。2つあがっているが、課題があがっている中でこの2つに絞っているということだと思うが、なぜこの2つなのか。

事務局 第2期計画では、ネウボラに取り組み、ハイリスクの方だけではなく少しでも不安のある方にも気づいていきたいということで進めてきた。場所や環境、人の配置などある程度整備は出来た。そこからさらに発展させることを考えたときに、早めの支援、行き届く支援を実施したいということで予防的支援に取り組むことを案としてご提示させていただいた。

横断的把握と多角的なアプローチが可能となるための関係機関の連携については、庁内の縦割りが多く、こどものことだけではなく他の要因で困っていることがあるかもしれないという状況も考えられ、家族全体を見ることのできる方向性が必要ではないかということで提示させていただいた。

委 員 重点課題の中でも優先順位があって、重点課題の6について優先度が高いということか。

事務局 予防的支援や横断的な取組については、全体のベースになるものである。重点課題の6に対してだけのことではなく、この2つをベースにすることで、他の

課題についても解決できるのではないかという考え方である

委 員 こどもの予防的見守り支援システムについて、見守りは予防的にするものなのか。見守ることですでに予防されていないとおかしい。見守り支援システムだけでもいいのではないか。こどもの予防的見守り支援システムにいろんな意味が重なり合っていてわかりにくくなっている。

横断的な把握については本当に必要なことだと思う。横断的に横串をさしてやっていくことになると、プロ的なスキルを持った人が必要になってきているのではないかと思う。そういったスキルを職員はどうやって身につけていくのか、養成していくのかということが必要ではないか。仕組みを動かしていく人のスキルが必要である。

事務局 システムの名称については、県のモデル事業の名称を使用している。ご指摘のことについては承知したので、ここでの表記の仕方としては「システム等を活用し」と修正する。ご指摘のとおりシステムがあることで万全だとは思っていない。システムに使われるだけではなく、結果の分析や支援については専門職の人材育成が本当に大切だと感じている。システムと職員の双方での取組が必要である。

重点方向の表記については精査する。

委 員 働く親に対しての支援を重点方向に入れることも考えられるのではないか。また、福山市では妊婦さんを乗せる訓練をされたタクシー会社がタクシーで病院まで連れていく事業をされていると聞いた。特に府中市では出産できる病院がないのでそういった支援をすとか共働き家庭の子どもの預け方についても改善が必要である。これらの視点が重点方向に入っているといいのではないかと感じた。

事務局 今ここでお示ししているのは重点の方向性であり、重点項目となると課題から見えてくる項目をあげることになる。こども計画という大きな計画の中で方向性としてはお示ししたものでいかせていただき、重点の項目になると具体的な施策があがってくるようになるので、先ほどのご意見は具体的な施策の方へあげさせていただく方がいいのではないかと思う。

委 員 重点方向としてはお示していただいた2つで進めていき、重点課題では細かな課題を捉えて事業を展開していくことになろうかと思う。

委員 資料2の2ページの(1)教育・保育及び地域子育て支援事業についての課題について、親族や知人に頼れない家庭に対する地域のサポート体制については、親族や知人に頼れない家庭だけではなく、子育て家庭は地域に頼っていいという書き方へ修正する方がよい。

3ページの(3)教育環境についての中での課題と、6ページの(7)こどもの権利についての課題について、6ページの方では課題の1つ目に「こどもの権利の意識の醸成に向けて、啓発をしていくことが必要」とあるが、これはこどもの権利に限定せずに人権とは何かを基本的におさえる。(3)教育環境とも関係するが、課題の1つ目の「規範意識や思いやりの心を育てるため、道徳教育や情報モラル教育の取組が必要」とあるが、思いやりの心が育てば人権が守られるかといえそれは違う。人権教育と道徳教育は区別して記載し、人権教育という言葉を入れるべきである。

(7)こどもの権利についての課題の3つ目のところで、こどもたちが自身の権利を理解し、適正にアクセスできるような環境づくりが必要とあるが、何にアクセスするのか。

5ページの(6)困難を抱えたこどもへの支援についてでは、こどもとその世帯への支援と打ち出した方がよい。また、課題の一つ目の「生活の安定のための支援」は具体的に何を指しているのか。

事務局 経済的支援を意味する。

委員 経済的支援も必要であるが、親が子育てに悩み抑うつ状態や精神疾患を発症されるような例もあるので、メンタル面でのサポートもしっかりやっていく方がこどもへ影響が及ばないと思う。生活安定のための支援とすればいろんなものが入るが、いくつか分けることで課題がはっきりする。

委員 子育て中の知人から聞いたが、小さな会社では気兼ねなく育児休暇をとることは難しいとのことだった。また、妊娠・出産時に各5万円支給される制度や保育料無償化など府中市の実施している各種子育て支援制度についてしっかり広報をした方がよい。

事務局 これまで情報発信については弱かったところなので、第2期計画策定以降取組を進めてきたところではある。子育てハンドブックも作成した。最新の情報はハンドブックのデジタル版では反映されている。チラシも新しいものを作成したり、広報に特集記事を掲載しているが、やはり自身が該当にならないと情報をしっかり取りに行くことはないかもしれない。そこはまだ行き届いていない

ところだと感じている。T S Sの番組でも府中市の子育てについて特集で取り上げていただくことになり、取材を受けた。T S Sからの申し入れだったので今回はお金をかけることなく実施できた。こういった機会を活用していきたい。

委 員 各種情報については、S N Sなどで発信されるといいと思う。

こういう会議ではある程度委員と市側が話すことで進捗していきたいと思う。資料を参考に次の展開の話をしてくださるといいと思う。みんながしっかりと話ができる会議にしていただけるとありがたい。

委 員 たくさんの施策を見て、その中には是非こどもの育ち、こどもの気持ちを入れて欲しいと保育する側からは思う。お母さんが働かなければならない、保育所に預ければなんとかなるとかあるかもしれないが、こどもはどうしたいのかという思いを反映させていきたい。

※全議事了承